

運動療法を継続できる「2型糖尿病患者の運動療法と 見え方分類ツール」の作成

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: 金沢大学
URL	http://hdl.handle.net/2297/37217

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



平成 25 年 8 月 23 日

博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号

0727022027

氏 名

山崎 松美

論文審査員

主 査（教授）

中谷 壽男



副 査（教授）

稲垣 美智子



副 査（教授）

加藤 真由美



論文題名 運動療法を継続できる「2 型糖尿病患者の運動療法の捉え方分類ツール」の作成

論文内容の要旨

本研究は、2 型糖尿病患者の療養行動の中で実施率が低い運動に着眼し、先行研究結果を基に、運動療法を継続できる「2 型糖尿病患者の運動療法の捉え方分類ツール」を作成した。本研究の基盤となる先行研究では、運動療法の実施は 1 から 5 段階で成熟していき、継続を可能とする構造は 3 段階から 5 段階の人であることを質的手法により仮説として示した。本研究は、先行結果から、32 項目のツール原案を作成しツール作成の手順に従ってツールを完成させた。

方法は第 1 段階として原案作成し、その後 2 型糖尿病患者 296 名を対象に面接および質問紙調査を行い信頼性と妥当性の検討、さらに 72 名を対象とした再テストによる再現性を検討した。

分析方である信頼性の検討では、対象者に面接による運動継続の段階判断（外部基準）を行い、その後に同一対象者に質問紙の調査を行った。その結果の一致度を確認し基準関連方法により、弁別力の優れた項目を選択しクロンバック α 係数と Item-Total 相関を算出した。構成概念妥当性では、3 段階から 5 段階の得判定による判別分析によりの中率を求めた。

その結果、5 カテゴリ 21 項目からなる分類ツールが完成された。このツールは内的整合性を示すクロンバック α 係数 0.88、構成概念妥当性を示す判別分析では、3 つの段階での判別は 55.8%、1、2 段階と 3 段階の 2 つでの判別は 68.8%であった。再現性では、信頼係数 0.782 と概ね再現性が確認された。よって、本ツールは一定の信頼性と妥当性を持つことが確認され完成された。

審査結果の要旨

2 型糖尿病患者の運動の継続を可能とする取り組みは、糖尿病医療の重要な関心事でありながらも有効な方法の提示がなされていない。本研究は、前期課程から一貫して取り組んできた仮説モデルを、臨床に活用可能なツールとして完成させた。また、2 型糖尿病患者が運動継続するためには、段階的な発達が必要だとする先行研究の結果の証明がなされ、糖尿病教育において重要かつ独創的であると考え。新しい介入方法につながる本研究は、糖尿病患者教育の発展に寄与する。公開審査における質疑では研究手法、今後の臨床応用についての質問がなされたが、その応答は論理的かつ適切であった。以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。